



JOCA Kyushuだより

特定非営利活動法人九州海外協力協会
Japan Overseas Cooperative Association of Kyushu

謹賀新年

明けましておめでとうございます。

2010年は日本を始め、世界各国が政治・経済・文化と様々な分野で激動した年であったような気がいたします。正に猛々しい寅年を象徴した365日であったと言って良いかもしれません。

明けて今年は「卯年」。明るい未来に向けて、ホップ、ステップ、ジャンプ。世界各地域で活動しているJICAボランティアの皆さんの活動と、世界の恵まれない人々に、今年が卯年に因んだ飛躍した良い年になることを期待して新年のご挨拶を申し上げます。

事務局長 花田 真人



蠟梅 ロウバイ

「先導」「先見」「慈愛」

田淵 陽平

八幡

JOCA九州 メンバー紹介

博多



マダガスカル/青少年活動

正月太りなのか、体重が激増し膝が痛い今日この頃。今年の目標は体重5kg減と計画性です。世界や世代の心をつなぐクバーラ、今年も広がっていきます&シャープな私を乞うご期待！

山本 真理子



エジプト/野菜

たくさんの方々に支えていただいていることに、日々感謝しています。今後も様々な方との繋がりを大切に、JOCA九州らしい仕事や活動を模索し取り組んでいきます！

協力隊OVの方には、いつも力強いパワーをもらいながら毎日楽しくお仕事させてもらっています。多くの協力隊の方々と繋がれるJOCA九州を目指して今年も頑張ります！

後藤 久美子



ガーナ/エイズ対策

多くの帰国隊員の方々にお世話になりながら、日々仕事に精を出しております！今年も募集説明会ではよろしく願い致します！！

武井 隆治



ガーナ/理数科教師

田中 富美代



ルワンダ/ソーシャルワーカー

私達にできること、それはJICAボランティアの有意義性を世の中の皆様に確実に正確に広報していくこと。『協力隊…いないんじゃないの？』って？オイマイクよこせ！と言いたくなりました。是非皆様の力をお貸しください！

有吉 千絵



マラウイ/理数科教師

みなさんと一緒に、この九州を盛り上げていきたいです。今年も笑顔でがんばりますので、どうぞよろしく願い致します！

齊藤雅之遺児育英基金 お礼とご報告

当協会職員齊藤 雅之が36歳の若さで急逝しましてから、早いもので4ヶ月が経ちました。

皆様には齊藤 雅之遺児育英基金の趣旨にご賛同いただき、全国・海外各地より、150名の方から心温まるご厚意が寄せられました。残された優樹くん(1歳)の健やかな成長を祈り、まずは御礼とご報告を申し上げます。

尚、遺児育英基金の期限は1月末日までとなっております。重ねて皆様方のご協力を仰ぎたく、ここにお願い申し上げる次第でございます。

募金送付先:郵便振替 口座番号 017200 - 88928 口座名 齊藤雅之遺児育英基金

特定非営利活動法人九州海外協力協会
〒812-0011
福岡市博多区博多駅前3丁目28-4 陣内ビル2F
TEL: 092-415-6536
E-mail: ngoqshuint@joca-kyushu.or.jp

会員募集のお知らせ!

当会の活動に、ご賛同頂ける団体・個人を、募集致しております。会員の方には「JOCA Kyushuだより」を送付する他、当会主催、共催のイベント情報をご案内致します。

	正会員	賛助会員
個人	¥3,000	¥2,000
団体	¥10,000	¥10,000
法人	¥30,000	¥10,000

ご関心のある方は、当会までお問い合わせください。

～情報・ご意見お寄せ下さい～

「JOCA Kyushuだより」では、皆さまからのご意見、各種情報をお待ちしております。国際交流や国際協力に関する有益な情報であれば何でもOKです!! お気軽にお寄せください!

発行 特定非営利活動法人九州海外協力協会

〒812-0011
福岡市博多区博多駅前3丁目28-4 陣内ビル2F
TEL: 092-415-6536
FAX: 092-415-6518
HP: <http://www.joca-kyushu.or.jp/>
E-mail: ngoqshuint@joca-kyushu.or.jp



せかいをつなぐ しゃしんでん

@AEON
yahata-higashi
shopping center

去る十月二十三日(土)～三十一日(北九州市のイオン八幡東ショッピングセンターにて)「JICA九州主催 世界をつなぐ写真展 第四弾」を開催しました。これは、協力隊とシニア海外ボランティアの広報啓発の一貫として開催しているもので、今回は、地元のエジプト・ラオス・カボンプラシル・パプアニューギニア・ケアテマラのボランティアO.V.に協力していただき、アルバムの写真も含め、二百枚以上の写真を、市民の皆様にご覧いただくことができました。ボランティアの二年間全てが、そこで見せられるわけはありませんが、地元から一大決心をして旅立っている若者がいること、若者にはまだ負けんよーと若者より元気なシニアの方々がいること、少しでも皆さんに知っていただきたい。そしてあわよくば、皆さんにもチャレンジしてほしい！という期待も込めつつ、JICAボランティアの活動や制度について説明して参りました。

(田中)

今回は、
3月19(土)～27(日)
ゆめタウン久留米にて
開催予定！！

土日祝日はJICAボランティアのO.V.
が11:30～19:00まで常駐します。

H23年度春募集

に向けて、
頑張ってください！！
遊びに来てください

森と私たち2010

第3回「秋の森を歩こう！」

昨年11月20日、見渡せば赤、黄、緑、茶、色とりどりの葉そして見上げれば澄み切った青い空・・・思わずスケッチを取りたくなるような美しい景色が糸島市井原山にはありました。天候にも恵まれ、絶好の散策日和で、参加した留学生(イラン、スリランカ、ネパール、中国、カンボジア等)16名、日本人16名全員が森の空気をいっぱい吸って、第3回「秋の森を歩こう！」を楽しみました。

今回の目的は、「身近な草木からものづくりをする楽しさを体験しよう」で、イガグリやユリノキの葉を集めての草木染めに挑戦しました。参加者全員、それぞれのハンカチに、輪ゴムや割り箸を使って思い通りに「絞り」を入れます。草木染めの醍醐味は、染め終わり絞りを取るまで、どんな模様になるか分からないこと。広げて初めて自分の作品と出会えます。そして参加者がお互いに出来上がった作品を眺め合い、新たな「森の恵み」を楽しむこともできました。その他にもお弁当を持ち寄って様々な国の伝統料理をみんなの笑顔と共に味わえたり、笹からお茶を作ってみんなで飲んだり、笹船を作ってみたりと実りある一日となりました。

日本の四季の素晴らしさ、国を超えた人とのつながり、いつまでも参加者の心に色褪せることなく残るでしょう。今回、関わっていただいたすべての人に感謝します。

(有吉)



JICA青年研修

～大洋州混成研修員来福～

昨年11月下旬に大洋州諸国(フィジー、サモア、バヌアツ、パラオ、トンガ、マーシャル諸島、ミクロネシア、計20名)から小学校、中学校の教員や教育機関の方々が来日されました。

この研修期間中、教育現場や関係機関の視察を行いました。13日間の研修中に、日本における理数科教育の教授法や学校教育の在り方や問題点を学び、それらの経験を自国のそれぞれの現場に持ち帰り、活用して行きます。中でも訪問させた頂いた中学校では、全校生徒からの合唱やブラスバンド演奏をして頂き、研修員も心から感動しておりました。また、地域の方々との交流として、ホーム・ジットを行い、半日でしたがそれぞれの受け入れて下さった家族と共に思い出に残る一時となりました。

今回研修を通して多くの方々にお世話になり、本当に有難うございました。この場をお借りし、本研修に関わった皆様方に厚く御礼申し上げます。

(武井)



平成23年 1月～3月までの予定

1月17日(月) 特別募集説明会 熊本保健科学大学

1月25日(火) 特別募集説明会 福岡教育大学

1月28日(月) (社)青年海外協力協会評議員ブロック会議

1月23日(月) 熊本県JICAボランティア家族連絡会

2月13日(月) 鹿児島県JICAボランティア家族連絡会

2月19日(月) JICA中高生エッセイコンテスト表彰式

2月24日(月)～3月7日(月) JICA青年研修事業

3月19日(月)～27日(月) 世界をつなぐ写真展



会員に迫る！ (有)九州環境創生研究所 赤石 維衆 さん

環境分野に関わるきっかけ

赤石さんが環境調査や水耕栽培システムの構築を生業にするきっかけは、平成7年の阪神大震災にさかのぼる。兵庫県西宮市出身の赤石さんは、甚大な震災被害を目の当たりにした。中でも一番ショックを受けたのは、被災地の下水処理の現状であった。設備がない不衛生な現場でこそ、コンパクトな水処理技術が必要、そのために尽力したいとの思いが強まっていった。大学を卒業した後、大手の水環境コンサルタント会社に就職した。河川部に所属し、東京と福岡で計5年間、仕事に没頭する日々を送った。

協力隊への参加

予てから、海外に興味を抱いていた赤石さんは、海外でこそ自分の取り組みたいことができるのではないかと考えた。そして平成12年末に勤めていた会社を退職、青年海外協力隊に応募し、水質検査隊員としてカンボジアに派遣されることとなった。赴任先のプノンペン市水道局では、水質調査のデータ管理、浄水場のメンテナンスなどに取り組んだ。現在の穏やかな人となりからは想像がつかないが、時に言い争いをすることもあったそうだ。そんな中で、掃除婦や運転手、ブルーワーカーの人たちと、気の置けない関係を築いてきた。ある時農村で、カンボジア人のビジネスのアドバイスをする機会があった。その際に赤ん坊を抱いた母親から、「あなたのおかげで、この赤ん坊を学校に通わせるお金ができたわ。」と言われた。その言葉は現在、「ビジネスで開発途上国支援を行う」という赤石さんの志の原動力となっている。

(有)九州環境創生研究所の設立

平成15年に日本に帰国した後、以前勤めていた会社の人から紹介され、環境調査の仕事に携わった。その現場で出会ったのが福山社長であった。何年もずっと疑問に感じていた環境調査の仕事や行政のあり方について討論する中で、二人は意気投合した。その後、平成18年に 環境について、市民全員が意識・理解する社会を構築する。 汚排水処理・廃棄物処理を有価化物・資源化の手段とする 途上国の水などの環境改善を、低コストで低所得者層まで浸透させるという理



念の下、会社を設立することとなった。2年間は二人三脚で、長崎と福岡で連携を取り合い、その後徐々にメンバーが増え、現在は5人で会社を運営している。

日々の取り組み、これから・・・

現在赤石さんたちが特に力を入れて取り組んでいるのは、廃水から野菜ときれいな水が作れる水資源のリサイクルである。どんな仕組みかというと、水処理した廃水を使い野菜の水耕栽培を行なう。そうすると、廃水の塩類を野菜が吸収し、水を浄化することができるのである。当日取材におじゃました私の中に入ってきたのも、チンゲン菜、水菜、レタスなど、きれいに並んだグリーン。しかもこの野菜栽培は農薬を使わず、低コスト、場所を選ばずどこでもできるというのが、なんと画期的！この技術を普及することで、現在、世界を取り巻いている食料や水の問題解決の一助になると考えている。

もう一つ、力を注いでいることは中小企業連合「ワクワクネット」の試みである。NGOやNPOを中核に据えることで、各々の会社の持ち味を生かしながら、情報の共有、連携の促進を図ることが可能となる。この中小企業連合で、海外の地方都市や農村をターゲットにした浄水システムや浄化槽の普及など、水処理の簡易処理装置を普及できると見ている。今後の赤石さんの動きにますます目が離せない！！ (山本)

JOCA九州へのエール

隊員経験者以外にも会員の幅を大きく広げて、JOCAが『海外支援』から『国際協業』の話し合いの場になるよう期待しています。

Japan Overseas Cooperative Association of Kyushu